

日本橋のまちづくりについて

ビジョン

「未来に続く街道の起点、日本橋」

江戸時代の日本橋は、**五街道の起点として、日本全国から人・もの・ことが集まり、それらの交流によって新たな産業や文化を生み出した非常にイノベーティブな街**でした。そのような中心性ある街を、現代においては世界を舞台に再現したい、そんな思いが込められています。

世界中から仲間を集め、交流し、未来に向けた新しい価値を、世界に向けて発信していく。その起点となる街を、私たちは目指していきます。



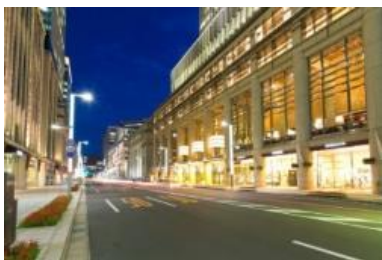
熙代勝覧(部分) ベルリン国立アジア美術館
Photo AMF / DNPartcom / © bpk / Museum für Asiatische Kunst,
SMB / Jürgen Liepe



※日本橋越しに箱崎方面を見渡す。
※この絵は将来のイメージで、実際の開発計画等とは異なります。
(2019年8月時点)

コンセプト

「残しながら、蘇らせながら、創っていく」



重要文化財の並ぶ景観の維持のため、建物前面の高さを揃えるルールを継承



地域コミュニティの拠点である「福德神社」の社殿を再建



日本橋の文化や歴史を活かしたイベントを官民一体で創出

残しながら

建造物
伝統ある老舗
街の歴史や文化

蘇らせながら

街の景観
水と緑
賑わい

創っていく

次世代に向けた
新たな街の魅力
「日本橋オリジナル」の発信

日本橋の歴史

江戸時代(17世紀～)



※日本橋

日本橋は大量高速輸送手段であった水運の拠点となり、江戸町人地として発展。江戸の経済、金融、商業、物流、文化の中心に。日本中から、人・もの・ことが集まり、新しい産業や文化が生まれる土壌が育っていった。日本橋を含む当時の江戸は、あらゆるものの中心として、世界でも類を見ない賑わいを見せていた。

**日本橋は、今でいうベンチャー企業のような
チャレンジャーが集い、
新しい産業や文化を次々と輩出**

繁栄から衰退へ



※日本銀行



※越後屋

※三井本館

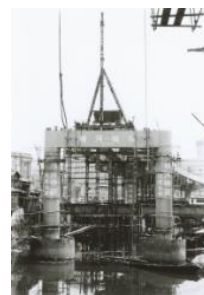
日本銀行の日本橋への移転や、三越の開業など、明治以降も日本橋は金融・商業の中心地として繁栄をみせていた。



※関東大震災時の三越周辺



※関東大震災時の中央通り



※建設中の首都高速道路

1923年関東大震災で日本橋から魚河岸が移転。その後1945年には東京大空襲で一帯が焼け野原となるも、戦後は再び街の賑わいを取り戻した。

1963年日本橋上空に首都高速道路の建設。高度経済成長の時代の中で金融街・商業街としての地位を維持したが・・・

山一証券の倒産や東急百貨店の閉店などにより、金融・商業両面でその勢いを失うことになる。

衰退と繁栄を繰り返す日本橋。90年代後半にその中心性を失う。

日本橋再生に向けて

低迷からの脱却を図り日本橋エリアの活性化を目的に、1999年「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」が設立される。

日本橋に本社を置く三井不動産は、官民・地域と一体となり、**日本橋の再生**に着手し始めた。

